

令和4年度第三者評価 改善状況報告書

令和5年3月31日

施設名	港区立特別養護老人ホーム白金の森	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区白金台5-20-5	指定管理者	社会福祉法人 奉優会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和5年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和5年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
<p>現在、利用者の中心は90代になっており、今後も利用者の心身状態が低下していくことが予測される。それに伴い、今以上に介護量の増加が見込まれるため、職員の負担軽減につながる介護機器導入について検討を進めていくことが期待される。機能訓練指導員の豊富な知識を活用して、新たに導入を図った事例もあるため、今後も多職種連携の下、利用者の安心・安全を担保した上で新たな介護機器・用具を検討するため、従来以上の情報収集や試行的な導入をしていくことが期待される。</p>		<p>利用者が職員と一緒に介護機器を利用することによって、安心できる環境を提供した。これらの機器を有効に活用することで、従来の方法よりも無理なく生活の動作が行えることについて、機能訓練指導員を中心に研修を行った。</p>	<p>新たな介護機器として、眠りスキャンの導入を検討している。 機能訓練指導員を中心に研修・実習の機会を増やし、職員全員が連携して安全に正しく機器を利用できるよう努めていく。</p>	<p>利用者や職員に必要な介護機器の情報を収集するよう指導していく。 また、導入に当たっては、丁寧な研修や実習の機会を作るなど、安全に使用するための取組についても指導していく。</p>
<p>日々の申し送り、介護システム記録、Wordソフトでの日誌、手順内容を綴っているファイル等で、個々の利用者情報を共有しながら支援することで、業務の標準化を図っている。ただ、新卒職員や異動職員、外国人研修生（EPA）、ハンドサポーター（介護支援職員）など、多様な職員が働いており、パソコン操作や記録入力、読み込みについて、得意、不得意がある。業務の標準化を図るためにも、パソコン研修の開催や、定型文の打ち込みの簡略化を図るなど現在思考錯誤しているところである。今後も研修の開催やOJTでの取り組みに期待したい。</p>		<p>IT機器の操作に不慣れな職員用に定型文を用意していたが、いつも同じ表現になりがちのため、自分の言葉に置き換えるよう職員に指導した。 外国人研修生については、日本語（丁寧語）による表現が難しいため、表現の文例を具体的に紹介、参考にするよう指導した。</p>	<p>丁寧語の表現については、外国人研修生向けに用意したものであったが、その他職員に対しても、有用であることが分かった。 現在の文例をバージョンアップし、OJTの項目に取り入れるなど、研修の機会を通じて、より効果的に活用できるよう工夫していく。</p>	<p>利用者に対して、職員全員が丁寧な接遇を行うことが出来るよう、定期的な研修や個々のニーズに合わせた研修を開催するよう指導していく。</p>
<p>事業所では、3か月に1度、家族意見交換会を開催している。コロナ禍でオンライン開催としている。また、2週間に1度、対面による家族との面会を設定している。遠方の家族とはオンライン面会も可能となっている。今後の感染状況を鑑みながら、家族意見交換会や面会などを順次開催していくと思うが、家族の高齢化もあり、従来以上に家族への情報の伝え方をわかりやすくしていくことが期待される。直接来所することが難しい家族やキーパーソンもいると思われるため、連絡の取りづらい家族・キーパーソンとの連携を一層工夫していくことも期待される。</p>		<p>オンラインによるコミュニケーションツールが浸透したことによって、遠方（特に海外在住のご家族）から面会のリクエストをいただき、好評を得た。 また、直接対面する機会も徐々に増えており、顔を突き合わせて話しができることの喜びを、利用者や家族はもちろん、職員も実感した。</p>	<p>引き続き、感染予防を続けながら、対面による面会や意見交換会の機会を増やしていく。 オンラインを活用した面会も好評のため、継続して行い、施設に来所することが難しいご家族にも丁寧に対応していく。</p>	<p>様々な利用者や家族のニーズに応えられる面会を的確に実施するよう指導していく。</p>